

9月4日

第3回霧が丘地区小規模校再編検討委員会 開催



「3校を1校に統合し、施設として霧が丘第二小学校を使う提案が行われました。」

再編検討の経緯とこれまでの検討委員会の内容

1 横浜市全体の小・中学校の現状とそれに対する方針

横浜市立小・中学校の児童生徒数は年々減少に伴って小規模校の数も年々増え、様々な問題点が指摘されるようになりました。

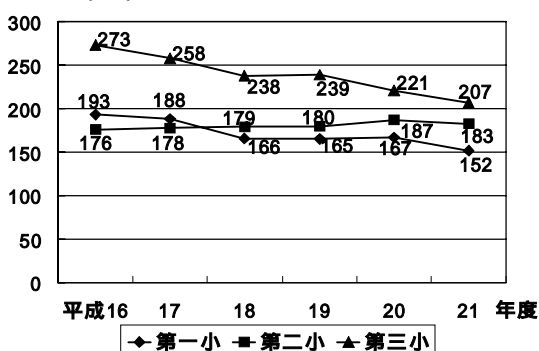
横浜市は平成15年12月に「横浜市立小・中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域の見直しに関する基本方針」を策定、小・中学校の小規模化問題に取り組むこととしました。

2 霧が丘地区の小学校の現状

霧が丘地区には、霧が丘第一・霧が丘第二・霧が丘第三小学校の3つの小学校がありますが、どの学校も今後の児童数は概ね減少傾向で、平成21年には合計542人、どの学校も各学年1学級(40人以下)になることが見込まれています。

そこで、「霧が丘地区小規模校再編検討委員会」を設置し、再編検討を進めています。

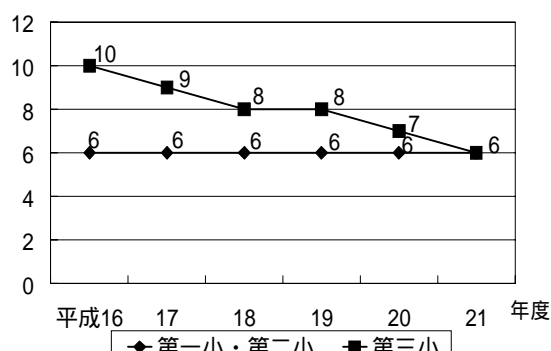
児童数(人)



◆ 第一小 ■ 第二小 ▲ 第三小

今後の児童数の推移

普通学級数



◆ 第一小・第二小 ■ 第三小

今後の学級数の推移

いずれも平15年度住民基本台帳より推計(平成16年度の児童数は実数と異なります。)

3 学校施設の転用について

(1) 建物・土地の活用状況

8割を超える学校施設が活用されています。

4 再編のシミュレーション

(1) 児童数と学級数(1学級の児童数の上限を40人として計算)のシミュレーション

2校を1校に統合する場合は、統合校は適正規模の下限の12学級で1学年2学級、児童数も減少傾向です。さらに残る1校は小規模校のままの状態です。

3校を1校に統合する場合は、適正規模である12~24学級のほぼ中央の18学級程度(1学年3学級)の学校となる見込みです。

なお、3校を1校にする場合は、いずれの学校も普通学級数が不足することが見込まれますので、必要な増築及び改修を検討します。

詳しくは、教育委員会HP:

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

をご覧ください。

第3回検討委員会での協議内容

1 再編の検討

霧が丘地区小学校3校を1校に統合する場合について施設面及び立地面から検討しました。

(1) 霧が丘第一、霧が丘第二、霧が丘第三小学校の施設状況の比較

霧が丘地区のいずれの小学校も敷地面積は13,000㎡程度で、グラウンドも120mトラックが取れています。構造は、すべての学校が鉄筋コンクリートで新耐震基準を満たしています。

なお、増築床面積が最も多く確保できるのは霧が丘第二小学校で、1,800㎡ほど（普通教室数で15教室程度）可能です。

表1：霧が丘地区小学校の施設状況の比較

	霧が丘第一小学校	霧が丘第二小学校	霧が丘第三小学校
敷地面積(㎡)	13121	13164	13446
校舎部分(㎡) (1)	7015	7794	6571
グラウンド(㎡)	6106	5370	6875
構造	鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート
階数	4階	3階	3階
H16年度学級数	6	6	10
〃 個別支援学級数	2	2	0
保有	普通教室	17	15
	個別支援	2	1
	特別教室(2)	6	6
	多目的室	0	0
増築スペース(㎡)(3)	約570	約1800	約630
	6教室程度	15教室程度	5教室程度
新築年度	S54	S57	S59
耐震補強(4)	H15工事済み	不要	不要

- 1 校舎部分面積は、グラウンドを除く、主に校舎と体育館の建つ敷地部分の面積です。
- 2 特別教室は、理科室、音楽室、家庭科室、図画工作室、図書室、視聴覚室を示します。
- 3 増築スペースは、校舎部分面積内で増築する前提で検討しています。
- 4 S56年以降の新築建物は新耐震基準で設計のため、耐震補強工事は不要です。



○内：増築可能部分

(2) 統合校に関する施設面及び立地面からの適性の検討

施設面については、15教室相当の増築が可能な霧が丘第二小が最もゆったりとした学習環境を確保でき、これまで各校が行っているような少人数指導のほか、例えば英語活動などの多様な教育の実施にも対応できると考えています。

通学時間については、霧が丘地区学区内の児童はいずれの学校にも徒歩25分以内程度で通学できますが、霧が丘第二小及び霧が丘第三小へは15分未満で通える児童がほとんどです。

教育面については、霧が丘第二小学校が霧が丘中学校の隣地で、小中の連携が図りやすいため、例えば不登校は中学校1年生での発生が最も多くなっていますが、小学校と中学校の教員が9年間でサポートしやすく、その抑制が図られるのではないかと考えます。

表2：統合校に関する施設面及び立地面からの適性の検討

	霧が丘第一小学校	霧が丘第二小学校	霧が丘第三小学校			
施設面	表1のとおり					
	増築可能性：6教室程度	増築可能性：15教室程度	増築可能性：5教室程度			
各校を使用した場合の通学時間等(*1)	通学時間	児童割合	通学時間	児童割合	通学時間	児童割合
	15分未満	76.1%	15分未満	92.5%	15分未満	97.8%
	15分以上20分未満	21.5%	15分以上20分未満	6.9%	15分以上20分未満	2.2%
	20分以上	2.4%	20分以上	0.6%	20分以上	0.0%
教育面	中学校との連携を図りやすい					

(3) 委員からの主なご質問・ご意見 (質問に対する回答は、特記しないものについては全て横浜市。)

- ・3校の体育館の床面積は何㎡か。また3校を1校にしても、体育館の広さは問題ないか。
霧が丘第一小、霧が丘第二小は650㎡程度、霧が丘第三小は850㎡程度と、設置基準が変わったことにより広さが異なります。広さについては、児童がピーク時の頃3校とも十分対応できていたので問題はありません。
- ・増築や既存部分への改修を行うと、どのくらいの期間がかかるのか。
増築と改修を同時に行う場合や、内部改修の程度等によっても違いますが、増築は10ヶ月～1年、改修は3ヶ月程度です。
- ・これからまた児童は減っていくのではないかと思う。増築を行わないでも統合できるような時期に統合することを考えないのか。
前回お示しした資料のとおり、今後6年間は18学級必要です。また教育委員会としては、今現在の児童について、クラス替えができないような状況を解消できる規模にしたいと考えていますので、必要な増築は行いたいと考えています。それ程長い年数を待つことは考えていません。
- ・3校を1校にする場合には、工事を終えてから統合校としてスタートするのか。
霧が丘地区に関してはプレハブや分校は考えていない。子ども達には一切迷惑をかけず、18学級すべて同じ条件で教育を受けさせるのが地域の努めだと考えている。(委員長)
- ・必ずしもクラス替えがないために逃げ場がなく、報道されているような不幸が起きているとは思わないが、6年間ずっと同じ教師に教わるのは場合によってはかわいそうだと思う。
- ・3校を1校にすることに賛成である。
- ・35人学級になる可能性もある中、増築して統合してもまた教室不足が生じるのではないか。無駄な投資はやめるべきである。
霧が丘地区については、今後6年間は18学級という見通しを持っています。

2 統合校の魅力づくりについて

統合校の教育面での魅力づくりについて検討しました。

(1) 統合校の教育について

教育委員会で小学校教育を統括している首席指導主事が次のような説明をしました。

- ・3校が1校になるならば、基礎的学力を付けるための教育はもちろんですが、地域と保護者のニーズを踏まえた「霧が丘地区の学校」を、地域、保護者、学校が共通理解をもって作るという発想で、教育方針を立てる必要があると考えています。現在、霧が丘地区の3小学校の特色を整理していますが、「新しい学校を作る」という認識で、ぜひ魅力ある学校にしたいと考えています。
- ・霧が丘地区の統合校の魅力や特色としては、例えば英語活動、情報教育、小中連携の3つが考えられます。
英語活動は既に霧が丘第二小学校で実施していますが、近くに東洋英和女学院大学と翠綾高校があるなど地域の方々からの協力が得られるという特性を活かせると考えています。
情報教育は、英語活動と並んで表現活動の一つとして重要で、今後欠かせません。
小中連携に関しては、学校と地域が9年間スパンの教育課程で霧が丘地区の子どもを育てる、という発想に立つことができれば実現可能です。そうすることで、例えば小学校での英語活動を中学校での英語教育の前段階と捉えて実施することで英語嫌いをなくす、中学校1年生で発生する率が高い不登校について、小中が一緒にサポートすることでその発生を抑制する、などできるのではないかと考えています。
- ・このような統合校の魅力づくりと同時に、例えば英語活動のためのLL教室や、パソコン教室、小中連携のための作業部屋など、学校の教育目標と連動した施設づくりが大切になるので、

普通教室以外の特別教室や多目的室などの整備が可能かという点が重要な意味を持ちます。ぜひ、霧が丘地区の3校の先生を中心に、地域の方・保護者の方にも子どもが明るく楽しく元気に通える学校づくりを考えてほしいと思っています。

(2) ご質問・ご意見 (質問に対する回答は、全て横浜市。)

- ・小中一貫校的な発想でカリキュラムを組むのは可能か。5・4制などの特区はできるか。
小中一貫校は既に私立や他都市の市立でも実施されていますので可能だと考えています。特区は現在ありませんが、学校・地域からそのような希望が出れば検討したいと思います。
- ・これまで経験がない中でいきなり小中一貫校など始めてうまくいくのか心配である。
横浜市内には一つの中学校区に一つの小学校しかない学区が西区と金沢区に一つずつありますが、そこでは既に小中学校で様々な交流がされています。例えば、小学校の副校長に中学校の経験者を配置したり、中学校の英語教員が小学校に行って英語活動を行ったり、さらには中学生が、小学生が英語で手紙を書くのを手伝ったりしています。また、国も6・3制の改革案を出す中、横浜市も4・3・2や5・4制等検討していく気運はあります。統合校の教育内容については積極的に取り組んでいきたいと考えています。
- ・教育面の充実を考えるならば、例えば、保健室や図書室、給食室など既存の施設の改修も行うと捉えていいか。小中一貫校的教育をするならば、例えば中学校の何学年かまでは給食を実施するなど考えられないか。
予算の制約はありますが、より良い教育環境を考える中、増築だけ実施するとは決めていないので可能性はあると考えます。しかしながら、給食室については何も検討していませんので今の段階ではお答えできません。なお、既存部分の改修は夏休みに実施するので、その分工期は伸びると思います。
- ・やはり統合は合理化で、先生は少し減るが教育施設は良くなる、というように思える。
教員はトータルで言えば多少減ります。しかしながら、教員は6学級の学校には学級数+一人しか配置されませんが、統合すると18学級規模に見合った教員配置がされるためより余裕ができ、例えば先生方は今よりも研修に出やすくなる等の効果があると思います。コストについては、あくまで副次的な効果です。残る学校、なくなる学校なのではなく、新しい学校を作るという考え方でいてほしいと考えます。
- ・非常に良いお話だった。総論賛成である。しかしながらIT、英語教育となると、先生も時代に合わせてレベルアップしてもらわなくては施設が立派なだけの変な学校になってしまう。先生方には熱意があることを期待する。
現在、3校を1校にしたらどのような教育の特色づくりができるかを、霧が丘中学校を含む4校長と、各校代表の先生も集めて検討しています。先生方にはIT関係等の研修を行うことも必要だと考えています。
- ・今のIT教育は間違っている。ITは技術に過ぎない。理科と算数をしっかり教えてほしい。
ITは表現活動等のツールとして活用するものと捉えています。

3 再編統合に関する事務局からの提案

「霧が丘地区の3つの小学校は、1校に統合する。」
「統合校として使用する施設は、学びの学習空間を確保していくため増築の可能性が最も高く、さらに小中の連携が可能な霧が丘第二小学校とする。」
以上の提案を行いました。

霧が丘地区小規模校再編検討委員会の経過・横浜市の基本方針等は

ホームページでもご覧いただけます。



- ・基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>
- ・霧が丘地区小規模校再編検討委員会：
<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

霧が丘地区小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからの御意見をいただいております。FAXかEメールにて、事務局まで御連絡ください。

霧が丘地区小規模校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局 学校計画課 FAX：045-651-1417
Eメール：ky-kirigaoka@city.yokohama.jp
電話：045-671-3252